

あいち食育いきいきプラン2015 中間評価（案） 概要

平成25年度は「あいち食育いきいきプラン2015」の計画期間の中間年にあたることから、あいちの食育の目標として掲げている14項目の27の数値目標の進捗率※を確認し、食育に関わるさまざまな関係者が取り組むべき課題などを整理したものです。

※ 進捗率とは、計画作成時の数値から計画終了年の目標値に対する進捗の程度を表しています。

1 食育の目標の進捗率と評価・課題

取組の方向		食育の目標の進捗率			評価と課題		
		項目	進捗率 %	基準年 (%)	目標 (%)	現状値 (%)	
食を通じて健康な体を作るために	1 バランスの取れた規則正しい食生活の実践 2 生活習慣病や過度な痩身等の予防 3 食の安全に関する信頼の構築	○朝食の欠食割合	小学生（5学年） 16.7 中学生（2学年） 50.0 高校生（全日制2学年） 25.8 男子大学生 27.5 30歳代男性 ▲70.8	2.4	0	2.0	
		○朝食に野菜を食べている小中学生の割合	小学生（5学年） 23.0 中学生（2学年） 20.3	60.9	80	65.3	
		○肥満・やせの割合	肥満：小学生（5学年） 11.5 肥満：中学生（2学年） 72.7 肥満：高校生（2学年） 70.6 肥満：40～60歳代男性 27.6 やせ：20歳代女性 45.8	8.6	6	8.3	
		○自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している人の割合	男性 16.0 女性 11.9	43.7	60	46.3	
		○健康な歯を持つ人の割合	むし歯のない3歳児 51.8 第一大臼歯がむし歯でない小学3年生 86.0 進行した歯周炎を有しない40歳 2.2	84.4	90	87.3	
				47.0	80	53.7	
				8.1	7	7.3	
				9.7	8	8.5	
				27.7	15	24.2	
				28.2	14	21.7	
		53.2	70	55.2			
		85.7	90	89.4			
		71.8	90	72.2			
【評価】 ○17のうち16の目標は改善し、一定の食生活や生活習慣の改善が見られるが、約7割に当たる12の目標が50%を下回る進捗率 ○男子大学生の朝食の欠食割合は改善が見られるもののまだ2割が欠食 ○30歳代男性の朝食の欠食割合は大幅に悪化							
【課題】 ○小中学校及び高校における指導の継続と強化 ○キャンパス内の食堂で朝食を提供するなど、大学生以降の世代における食生活の改善を行う取り組みの強化 ○事業所等への啓発活動							
食を育てるために豊かな心を育てる	1 食を楽しむゆとりの確保 2 体験や交流を通じた食の理解促進 3 食文化や食事作法等の理解と継承	○家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合	59.6	60.2	80	72.0	
		○農林水産業に親しむ県民の割合	農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合 29.7 農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合 評価不能	62.8	80	67.9	
		○学校給食において地域の産物を活用する割合	21.3	43.7	60	-	
				37.0	45	38.7	
【評価】 ○3つの目標で改善したが、4つのうち2つの目標が50%を下回る進捗率 ○食を楽しむゆとりを確保しようとする意識の浸透、食への理解を得る機会の増加							
【課題】 ○未実施の学校に対する新たな農林漁業体験の選択肢の提示 ○地域のJAや生産者等との協力体制の強化							
食を暮らしを通じて環境に優しい暮らしを築くために	1 食生活における「もったいない」意識の浸透と実践 2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進 3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底	○むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合	28.6	43.0	50	45.0	
		○県産農水産物を優先して購入したいと思う県民の割合	評価不能	18.0	30	-	
		○環境や安全等に配慮して農業生産工程を管理するGAP手法の導入組織・法人数	159.2	93件	120件	136件	
【評価】 ○2つの目標で改善したが、3つのうち1つの目標が50%を下回る進捗率 ○GAP手法の導入組織・法人数は目標を上回った ○食べ物の消費と生産の両面からの環境への配慮の広がり							
【課題】 ○イベントや講習会での無駄の少ない食事づくりの継続的な普及啓発							

※進捗率=（基準年の数値-現状値）÷（基準年の数値-目標値）

項目	進 捗 率 %			基準年 (%)	目 標 (%)	現状値 (%)
	0	50	100			
○食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	72.1			5.7万人	10万人	8.8万人
○食育推進計画を作成・実施している市町村の割合	73.6			86.0	100	96.3
○「いいともあいち運動」を知っている人の割合	評価不能			36.0	50	-

【評価】
 ○2つの項目で改善しており、順調に進捗
 ○食育を推進する環境づくりが進んでいる

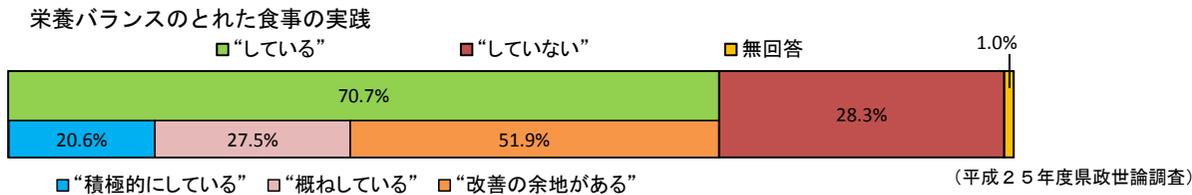
【課題】
 ○さまざまな活動分野と若い世代のボランティアの確保
 ○計画未作成の市町に対する計画作成の支援

2 評価不能とした目標について

- 評価不能とした3つの数値目標は、「県政モニターアンケート調査」が平成23年度に廃止となり、進捗状況の確認ができませんでした。
- このため、県政世論調査により平成25年度の数値を把握しました。
 - ・農林水産業に親しむ活動に参加する県民の割合 17.7%
 - ・県産農産物を優先して購入したいと思う県民の割合 14.6%
 - ・いいともあいち運動を知っている人の割合 21.7%
- なお、この3つの数値目標は、「食と緑の基本計画2015」の目標でもあるため、今後の目標の取り扱いについては、同計画との整合について、連携をとりながら検討してまいります。

3 ま と め

- 食育の数値目標の進捗状況を見ると、27の目標のうち23の目標で改善が見られます。しかしその改善の程度はさまざまであり、改善が見られる23の目標のうち14の目標が50%を下回る進捗率です。
- 本プランでは、「啓発から実践へ」を基本コンセプトとしており、食育の実践の程度を平成25年県政世論調査の結果で見ると、70.7%の県民が「栄養バランスのとれた食事をしている」と回答しています。しかし、そのうち51.9%の県民が、「まだ改善の余地がある」と回答していることから、「食育の実践」が十分なされていない状況にあります。



- 本プランの推進を図るためには、取り組みの遅れている項目について、さらにその取り組みを強化するとともに、今後も、県民一人ひとりが食育を実践できるよう、県、市町村、団体、事業者等がそれぞれの役割を果たしながら、連携し、様々な活動に継続して取り組んでいく必要があります。